

琉球大学学術リポジトリ

ヘンリー・ナカソネ博士との懇談会

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017480

【ヘンリー・ナカソネ博士との懇談会】

去る6月12日（土）に名護市双葉荘においてヘンリー・ナカソネ博士との懇談会が持たれました。参加者は15名で2時間余にわたって、熱帯果樹についての講演と活発な討議が行われました。

熱帯果樹は本会にとっても興味ある課題の一つですが、ヘンリー・ナカソネ博士はハワイ大学在職中より、沖縄において熱心に指導に当たっておられることはご存じのことと思います。サトウキビ、パイナップルなどの基幹作物の将来性はますます厳しくなると予想され、これらに替わる物として熱帯果樹が有望視されています。

ヘンリー・ナカソネ博士の話では、熱帯果樹を沖縄に導入するには沖縄に適合性のある果樹の種類

および品種の選択，機械化・省力化によるコストの低下，加工の問題が重要であるとの事です。特に沖縄では防風林を作ることが栽培において何よりも重要であることを強調されたのが印象的でした。パパイヤなどに加えて，チェリーモア，ザボデカボ，アボガドなども有望果樹として上げられました。熱帯果樹は期待できると同時に問題も多いと思われますので，今後，これに取り組む会員が増えることを期待します。

懇談会の後でオリオンビールの工場を訪れ，出来たてのビールに舌つつみを打ちました。感謝！

最後に，ヘンリー・ナカソネ博士およびこの懇談会を持つ機会を与えていただいた名護市当局にお礼申し上げます。